

◆三笠会館

僕が大学サークルの例会でくるようになったのも、ちょうどそのころなのだが、ともかくこの谷という創業者がなかなか興味をそそる人物なのだ。手元にある『東京風物名物誌』（岩動景爾著・昭和26年初版）の解説が愉快なので、少々長くなるけれど引用させてもらう。

「谷善之丞氏は立志奮闘伝中の人物。体軀短小なれども心胆廣大、才智弁舌に富んで而も情義恩愛の念豊か。明朗率直、難を恐れず、労を厭はず、事に当っては努力敢行の士、人に交っては篤信懇情の仁。店にあつては従業員を指導養育する事親爺の如く、外に出でては世人のため奔走盡力して廻る事くるくる廻る水車の如くこまねずみの如し。口八丁手八丁合せて銀座十六丁をはみ出して、日夜活動馳駆する姿は秀吉を小さくして玩具のジープに乗っけたる如し」

そもそもこの岩動(いするぎ)という書き手の文章が軽妙なのだが、ノッて書いているのが伝わってくる。

~~~~~

盡力

尽力(じんりょく)とは「力を尽くす」こと、つまり、持っている力をすべて注ぎ込むことを意味する表現。何かの目標に向けて、目標を成し遂げるために、力の限り、最大限、全身全霊、精一杯、粉骨砕身、一生懸命に取り組むこと。

~~~~~

信玄袋

◆泰明小学校

フランス門とシャレたアーチ型の窓を並べた塀の先から校内へ入る。校長室で第31代目になる和田利次校長よりお話をうかがった。和田校長、昭和30年生まれというから僕と同世代なのだ。「現在の児童数は334名、30名弱のクラスが学年あたり2組、12学級規模です」

イメージしていたより生徒の数は多い。しかし、ほとんど越境通学なのではないだろうか？

「ひとところよりは地元に住んでいる児童が増えてきたと思います。学区内通学者が30人以上、1丁目や8丁目あたりにファミリー向けのマンションが増えてますからね。中央区内ということでは、晴海や勝どきのほうから都バスで通学する子がかなりいるんですよ」

銀座の商店の2階に暮らしている児童、なんてのはさすがにもういないようだが、住居は移っても、4代続けて泰明という、オールドファンの家は何軒か存在するらしい。

...

ちょうど昭和4年(12月)に刊わされた今和次郎の『新版大東京案内』に、できたてホヤホヤの校舎(6月から使用)の解説がある。「昔の銀座が赤煉瓦で作られた頃、我国最初の煉瓦造りの小学校として当時ハイカラの名を恣(ほしいまま)にした古い歴史ある学校であるが、今は汽船を思はせるダーククリームの三層楼、超モダンの名で呼ばれる校舎で復興した。工費四十五万円、一年三ヶ月を費した鉄筋コンクリート建で総坪千二百九十八坪、教室二十、七百人を容れる講堂、屋上運動場、地下室等もあって、賛沢に一列に並べた教室は、採光に申し分なく、理科、手工、唱歌、図画等の特別室は、いづれも最新式の設備を尽してある。殊に児童等が小学校でお湯が使へるシャワーバスの室等に至っては、さすが超モダンの名に背かない。電気スチームの装置まで各室に備へてあり、屋上運動場に隣接して小綺麗な小公園が完備し、屋上は花壇の片隅になつてゐる。市内目ぬきの場所ではあり、附近に帝国ホテルがあるため、外人の参観を考慮に入れて、小学校としては最高の費用と材料を使用して、はづかしからぬものにしたのである」

◆画材屋「月光荘」

8丁目らしい小さなクラブ（ママさんのいる呑み屋）の看板が出た階を1つ2つ3つ……と上っていると、最上の5階に「月のはなれ」と名づけられた月光荘のサロンが置かれている。仄暗い通路の先に忽然と中庭が現れ、その向こうはテーブルやイス、棚に酒瓶が並ぶバー風のスペース。まさに、隠れ家といった雰囲気。もちろん、ところどころに素敵な絵画や彫刻が飾られ、アンティーク主体のイスやテーブルも凝っている。

「築50年くらいの建物なんですけどね、もともと屋根があった所を取っ払って、こういう露天の中庭スペースをつくったんですよ」

なるほど、よく見ると外壁を削り取った跡などが確認できる。そして、取材当日は日中で気づかなかったが、夜間に中庭から空を仰げばシンボルの月が望める……という仕掛け。つまり文字どおりの月光荘なのだ。

「そう、連日ジャズやボサノバ、ブルース……バンドの生演奏が入るんですよ」

説明が遅れたけれど、康造さんはミュージシャンの顔をもつ人物でもあるのだ。

「月光荘サロン 月のはなれ」を2013年12月にオープン

<https://tsuki-hanare.com/menu/deliciousfood/>



◆「佐々木商店」つやふきん

読むうちに昔の日本家屋の生活風景が浮かびあがってくるようだが、要するに木造の品物のツヤ出しに効くふきんなのだ。

パッケージに（池之端宝丹）の名が記されているが、ここはいまも上野不忍池畔の一角で営業する1680年創業の老舗の薬屋（守田宝丹）であり、この薬舗と共同開発したつやふきんには独特のワックスが使われているのだ。木製品をピカピカにするこのワックス、化学材ではなく、とある昆虫が作り出す蠟(ロウ)。

植木の枝につくカイガラムシという小さな貝殻状の虫をご存じだろうか？ その一種、イボタロウカイガラムシのオスの幼虫がイボタの木枝に分泌する蠟を木綿布に浸みこませているらしい。虫嫌いの人はエッ！と思われるかもしれないが、このイボタの蠟は趣のある和ロウソクの原材料でもある。

~~~~~

すずらん通り

銀座は1丁目から8丁目まである街で、その中心にあたるのが「銀座通り」と「晴海通り」が交差する4丁目の交差点です。日本一の地価としても有名な和光や三越、GINZA SIXなどに面した通りが銀座のメイン通り「銀座通り」で、その一筋西側、有楽町駅寄りの通りが「すずらん通り」です。詳細を述べると、1丁目から4丁目までが「ガス灯通り」で、5丁目、6丁目、7丁目が「すずらん通り」、8丁目は「金春通り（こんばる）」と、同じ1本の通りでもそれぞれの名前と呼ばれています。

<https://gin-suzu6.jp/about/>

~~~~~

◆ライオン

ところで、先に開業は明治 32 年夏……と漠然と書いたけれど、正確には 8 月 4 日。銀座ライオン各店では、いまもこの日にすべてのビールが半額で飲める。

由来

は、店の経営者である築地精養軒（上野精養軒の前身）の北村宇平という人物が、ロンドンのピカデリー広場にあったレストラン「ライオン」を気に入って、拝借したものらしい。

~~~~~

トラファルガー広場のライオン像

~~~~~

◆教文館

「あたり前田のクラッカー」（「てなもんや三度笠」の藤田まことの決め文句）

映画のヒットによって、2000 年代以降一段とポピュラーになったナルニア国、このスペースに入っていくと、僕が小学生の時代に岩波書店から発売されたナルニア国物語の初作『ライオンと魔女』（瀬田貞二・訳）をはじめ、『ドリトル先生』のシリーズ、福音館書店の『いやいやえん』や『エルマーのぼうけん』……といったおなじみの児童書が、50 年前とほぼ同じ装丁、判型で書棚に並んでいる。眺めながら、あのころの小学校の図書室にトリップした気分になった。

◆シャツの「ナカヤ」→「フィジカルラボ銀座」

フィジカルラボの HP を開くと、まず（通わなくてもいいトレーニングスタジオ）というコンセプト・コピーが掲げられているが、金子氏のこのスタジオは 1 回・100 分ほどの人間ドックならぬフィジカルドックがすべての基本なのだ。

・・・

僕の場合、とくにスクワットにおいて「股関節が使われていない」ということが、孫田トレーナーの説明を聞いてよくわかった。

「ヒザの運動に頼りすぎているんですよ」

なるほど、意識してみると、確かにヒザばかり使っている。心もち、お尻に力を入れるようにして、頭の中で「コカンセツ」と唱えながらトライしてみると、徐々に型もよくなってきた。スクワットは通っているジム（これでも週 2 くらいペースで行っているのだ）の準備運動としていつも 40 回くらいやっていたのだが、本来のポイントの股関節にはほとんど効いていなかったのだろう。

◆割烹・小料理「はち巻岡田」

そして、3 代目の幸造さんは僕とはほぼ同世代、今回初めて知ったのだが慶応大学で 3 年後輩にあたる。

「小、中、高と暁星に通っていたこともありまして、文学部の仏文に入ったんですよ。ただフランス文学より山岸先生の哲学的な社会学の講義にハマつちやいまして…」

◆木挽町「中村活字」

活字の収納棚の奥には、鋳造機や印刷機が配置された工房がある。頁物とか端物とか、活字を収納する棚を「馬(うま)」といたり、明久さんの話には次々と符丁めいた言葉が飛び出す。僕ら書き手や編集者は校正紙のことをゲラと呼んでいるが、ここでゲラのもとになった印刷用具も見せてもらった。活字の組版を入れておく四角い箱—Galley（ギャリー）という英名が訛ったもので、いつしかそれを使って刷ったほうの紙自体がゲラになってしまったのだ。

100 枚の名刺（税込み 9900 円）
活版ならでの微妙な凹みの触感

◆あとかき

まあしかし、ともかく銀座は老舗、名店が多いので、興味を持ちつつ取りあげられなかったところはいくつもある。銀座のランドマークともいえる「和光」（一度時計台に上らせてもらったこともあった）や、「三越」「松屋」など昭和初めからのデパート。あんぱんの「木村家」、あんみつの「若松」……。 「銀座教会」も取材したかったし、銀座で昼めしというとまず思い浮かぶカツ井の「とん崧(き)」についても書きたかったなあ……。ちなみに「銀座百点」のショートコラムは1丁あたり2本を抜粋したので、本書に掲載できなかった店もある。

~~~~~

とん喜/とん崧

<https://r.gnavi.co.jp/e104700/>

~~~~~